

平成26年度 体育科の授業改善のための方針

1. 本年度の方策

① 授業で生かす

- ・引き続き、柔軟性をより高めるためにストレッチを多く取り入れた準備運動の工夫(泉HAPPY運動推進)
- ・投げる活動に親しませ、投げ方を指導していく
- ・運動量を確保できる時間設定
- ・運動量を確保できる活動の場の工夫
- ・日常でも運動に取り組める学習カードの工夫
- ・自己評価・相互評価のできる学習活動の工夫
- ・友達同士で励ましや協力ができる場の工夫

② 全校で生かす

- ・全校運動(泉HAPPY運動の推進)
- ・運動の日常化 外遊びの励行
- ・準備運動や体ほぐしなどを通して柔軟性を強化していく。
- ・「走ろう大会」「なわとび大会」の行事の充実
- ・自ら課題に取り組んでいけるような環境の整備(逆上がり練習機 ジャンピングボードなど)
- ・身体活動には「生活活動」と「運動」があり、発達段階に応じた十分な活動が大切であることを理解させる。

2. 児童の実態

①本校児童は、運動が好きで意欲的に取り組むが、器具・用具を使った運動のバランスが悪い。

②中学年は、休み時間に意欲的に運動している姿が見られる。登り棒、うんてい、平均台の苦手な児童がいる。体力測定をみると、平均より上回っているが運動している児童とそうでない児童の個人差が大きい。

③高学年は体力測定の結果を見ると、筋持久力は向上しているものの、柔軟性、走力がやや低下している。球技では、日常的に運動をしている児童としていない児童との技能の差が大きい。運動会に向けて、体力作りに取り組んでいる。

④水泳指導では、6年生で25mクロール、又は平泳ぎで泳げない子が6人、5年生で25m泳げない子が4人、4年生で15m泳げない子が3人、3年生で10m泳げない子が2人、2年生で5m泳げない子が2人、1年生で伏し

浮き(3秒)ができない子は1人いた。中学年が向上が大きい。6年生でクロール又は平泳ぎを習得できていない児童が増加した。→8月2'

3. 平成25年度の成果と課題(成果☆ 課題●)

☆運動が好きな児童が多く、積極的に取り組んでいる。

☆学習カードの活用により、自分自身でも活動を振り返り、その伸びを感じたり課題をつかんだりできるようになってきた。

☆「なわとび大会」「走ろう大会」にどの学年も熱心に取り組み、運動に対する技能を伸ばすことができた。

●敏捷性は向上してきたが、まだ全国平均を下回っている。特に低学年の敏捷性を高めたい。

●投げる運動の能力に差が大きい。

●逆上がりやマットの回転技などの差が大きい→感覚作りが大切